

企画展

日本スキー発祥110年記念

レルヒ少佐と高田の友人たち

シーハイル
Skiheil!
(スキー万歳)

令和3年
7月10日 (土) **9月5日** (日)



休館日：月曜日

※観蓮会期間中(7月17日～8月22日)は無休

開館時間：午前9時～午後5時(観覧券の販売は午後4時30分まで)

観覧料：一般510円(410円)、小中高生260円(210円)

※()は20人以上の団体料金

※幼児および市内の学校に通う小中学生は無料

※本料金で常設展もご覧いただけます。

上越市立歴史博物館

JOETSU CITY HISTORY MUSEUM

〒943-0835 新潟県上越市本城町7-7(高田城址公園内)

Tel.025-524-3120 Fax.025-522-7205

URL : <https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/museum/>



レルヒ少佐と高田の友人たち

明治44年（1911）1月12日、日本で初めての本格的なスキー指導が陸軍第13師団歩兵第58連隊（現在の越前市立城西中学校）で行われました。スキー指導を行ったのはオーストリア・ハンガリー帝国のテオドール・エドラー・フォン・レルヒ少佐でした。レルヒは、軍隊の視察を目的に来日し、明治44年1月5日から翌明治45年1月24日までの1年余り高田に滞在しました。

レルヒの高田滞在はわずか1年余りでしたが、軍人はもとより一般の市民たちとも、趣味である狩猟や絵画を通じて親しく交流を深めました。レルヒのアルバムには、高田の風景とともに親交を重ねた友人たちとの写真が収められています。レルヒと高田の人びととの交流は、ただ単にスキー指導を通じた「師弟」関係だけではなく、国境を越えた「友人」としての関係を育んだ深い交わりだったのです。

令和3年（2021）1月12日、レルヒによるスキー指導のはじまりから110年の節目を迎えました。本展では、レルヒと高田の友人たちとの交流の様子から、スキー指導にとどまらないレルヒの側面や人柄を紹介します。

— 主な展示資料 —

レルヒ書「都々逸 何をくよくよ」、レルヒ画賛「鹿図扇面」・「腕は宝なり」、片桐文邦画「龍図」、片桐文邦宛レルヒ名刺、高橋進著『スキー一家に』、雑誌『スキー』（すべて日本スキー発祥記念館所蔵）ほか

— 関連イベント —

■ 学芸員による展示解説会

日時：7月17日（土）、8月7日（土） 11時～12時
参加費：無料（ただし、観覧料が必要）

※申し込みは不要です。

新型コロナウイルス感染症の状況により中止となる場合があります。



レルヒ画賛「シーハイル 可否」〈日本スキー発祥記念館所蔵〉



妙高山惣滝不動前のレルヒと岡倉一雄（岡倉天心長男）〈日本スキー発祥記念館所蔵〉



レルヒ水彩画「Fujiyama」〈日本スキー発祥記念館所蔵〉



片桐文邦画「春日山松籟」〈日本スキー発祥記念館所蔵〉



レルヒ水彩画「チロル山脈」〈日本スキー発祥記念館所蔵〉

交通案内

【公共交通機関でお越しの方】

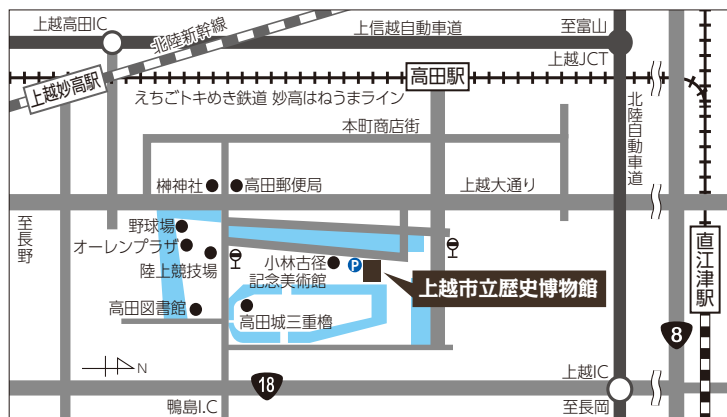
- ・北陸新幹線上越妙高駅下車「上越妙高駅前」から「中央病院行」バスで「西城町1丁目」降車、徒歩5分。
- ・えちごトキめき鉄道高田駅下車「高田駅前案内所」から「中央病院行」バスで「西城町1丁目」降車、徒歩5分。
- ・えちごトキめき鉄道直江津駅下車「直江津駅前」から「中央病院行」バスで「高田城址公園」降車、徒歩5分。

【自家用車でお越しの方】

- ・北陸自動車道から上越IC～国道18号線 嶋島立体交差点右折、高田城址公園内まで約15分。
- ・上越自動車道から上越高田IC～高田城址公園内まで約15分。

新型コロナウイルス感染予防対策について

- ①ご入館の際は手指の消毒をお願いします。
- ②館内ではマスクを着用し、間隔を空けてご覧ください。
- ③発熱など体調がすぐれない場合は来館をお控えください。



上越市立歴史博物館
JOETSU CITY HISTORY MUSEUM

〒943-0835 新潟県上越市本城町7-7(高田城址公園内)
TEL：025-524-3120 FAX：025-522-7205
URL：https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/museum/

